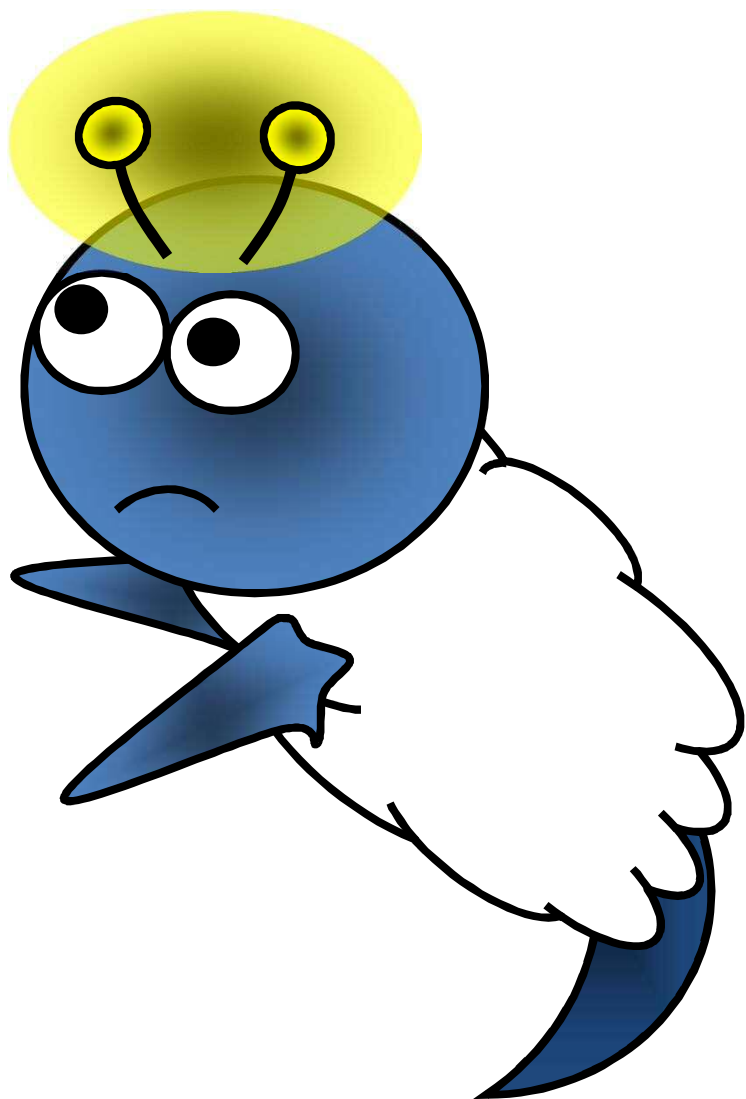
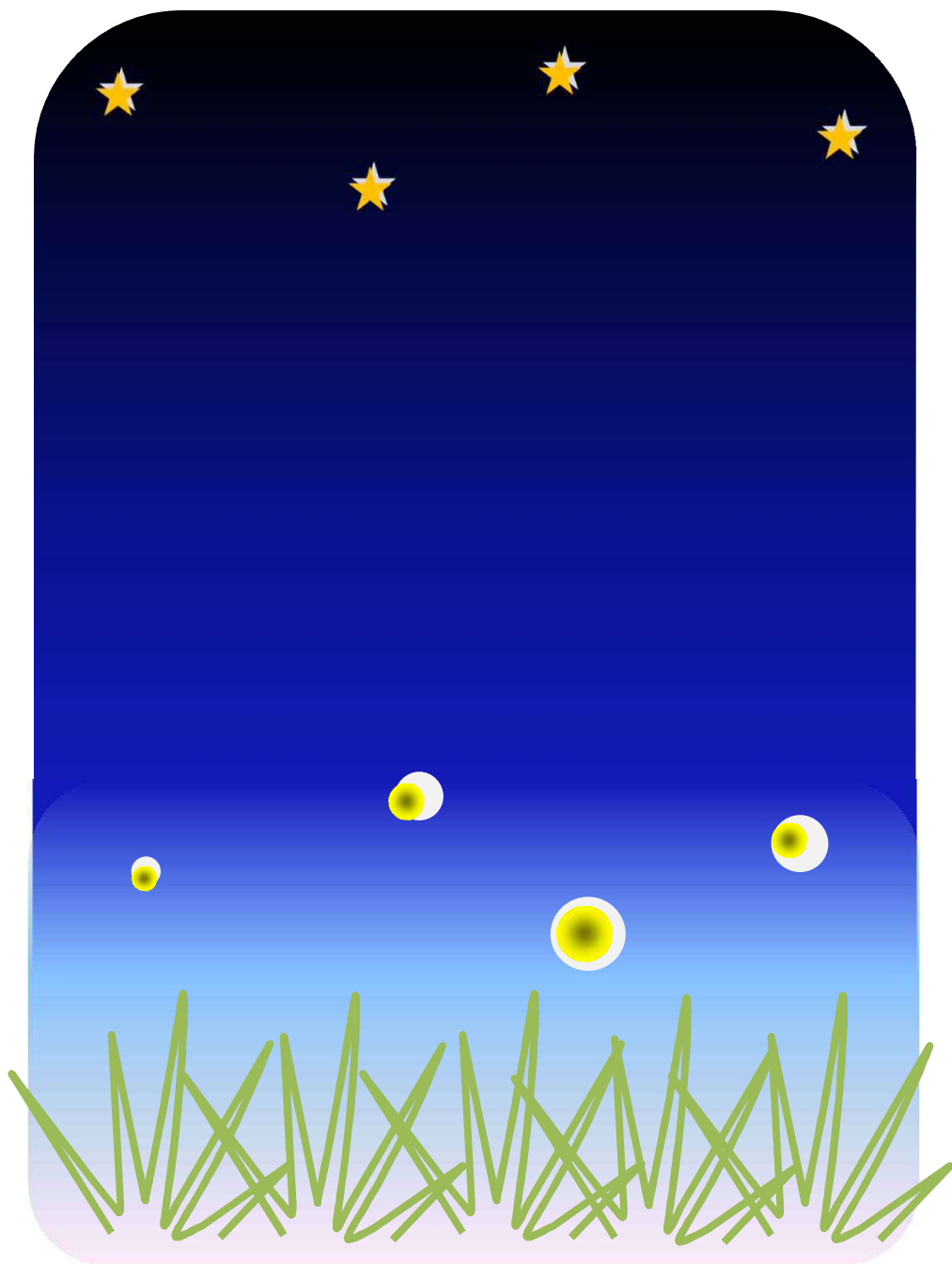




さく・え 幸徳環境設計



梅雨明け間近の、少し蒸し暑い夜だった。
川面には、うっすらと霞がかかる夜だった。
夜空には、星がきらめく美しい夜だった。
ひっそりとした、夜だった。
時間を忘れさせる夜だった。
蛍舞う、幻想的な夜だった。

そんな夜。

そんな夜に、もっこは現れる。

もっこが、蛍たちにまぎれて現れる。

もっこが、蛍たちにまぎれて舞う。

もっこが、蛍のように発光する。

もっこが、光のダンスを演出する。



もっこが、消えた。

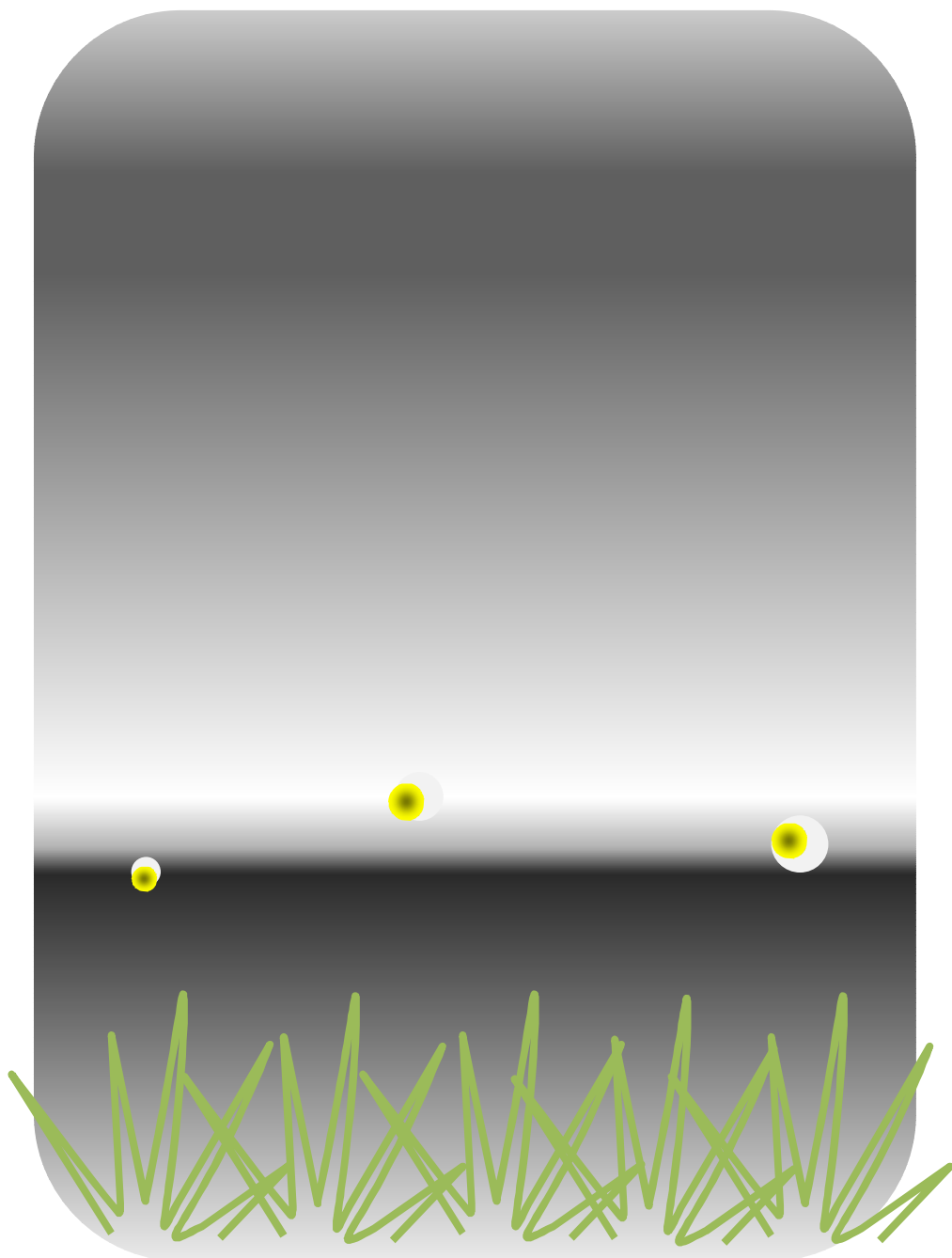
蛍たちが姿を消す頃、もっこが消えた。

もっこは、いつのまにか姿を消した。

もっこは、どこから現われたのか？

もっこは、どこへ行ったのだろうか？

もっこの事、だれか知ってる？



すると、一匹の蛍が言った。

もっこは、蛍たちの天使だと。

もっこは、光の妖精だと。

もっこが、光を運んでくると。

もっこが、喜びを運んでくると。

もっこが、幸せを運んでくると。



また、一匹の螢はこう言う。

もっこを、悲しませてはいけなにと。

もっこが悲しむと、光がなくなると。

もっこが悲しむと、喜びはなくなると。

もっこが、悲しむと不幸になると。

そんな時、もっこが現ることはないと。



また、一匹の蛍が言った。

もっこは悲しい時、空を見上げると。

もっこは、涙がこぼれないように空を見上げると。

もっこは、元気になろうと空を見上げると。

もっこは、光を取り戻すために空を見上げると。

もっこは、みんなの幸せのために空を見上げるのだと。



そして、蛍たちは言う。

もっこのが、真っ暗な夜空を眺めていると、

一つ、二つと、三つと、次々にお星さまが現れると。

ピカピカのまん丸お月さまが現れると。

何よりも美しく幻想的な夜空が創造されると。

そして、みんなが幸せな気分になれるんだと。



そして、蛍たちは言う。

もっこが、泣き出しそうな空を眺めていると、

空には、七色に光り輝く虹がかかると。

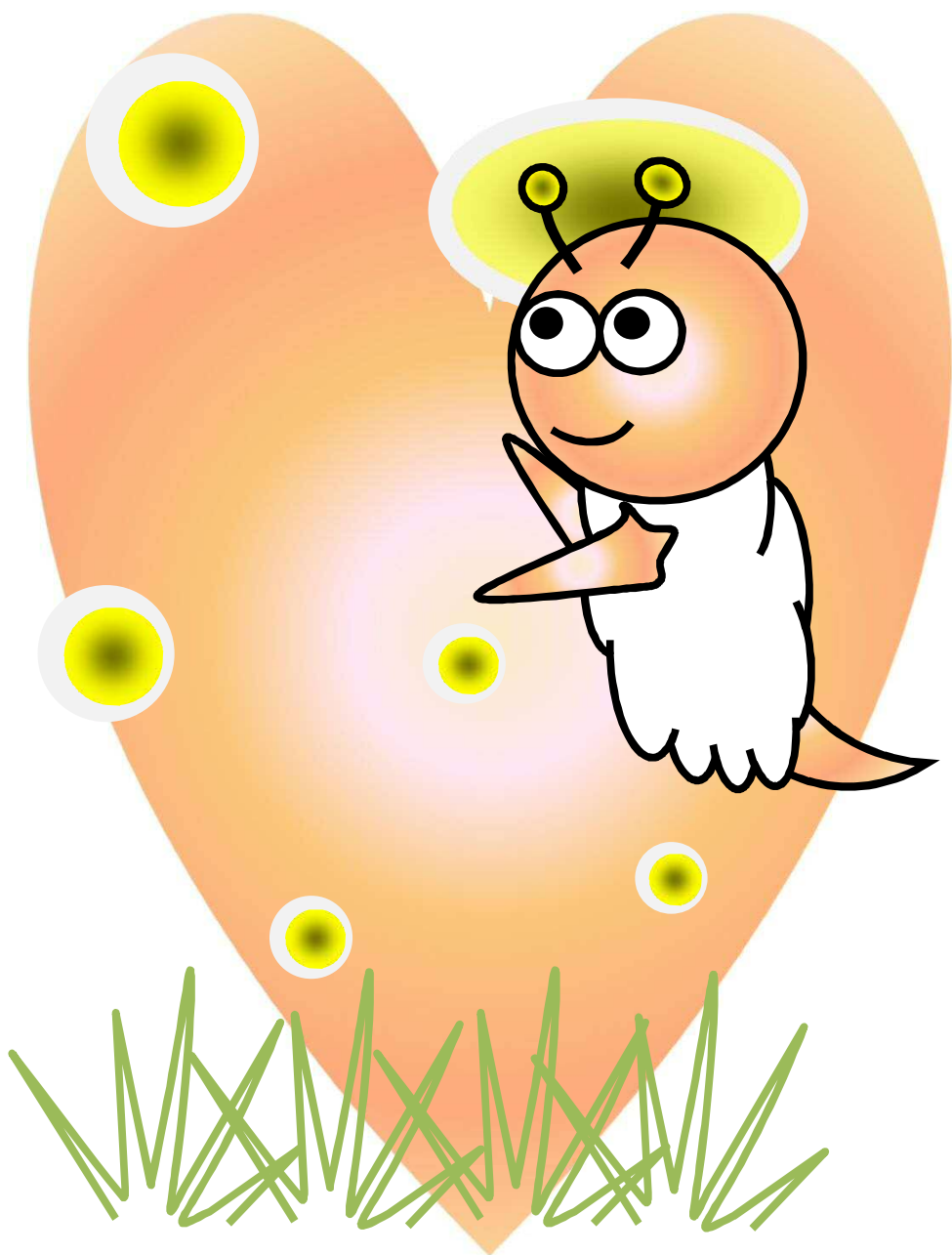
空一面が、光に満ち溢れたスカイフルーに染まると。

それは、もっこが創造した光と希望の架け橋なんだと。

そして、みんなが幸せな気分になれるんだと。



だから蛍たちは、信じている。
だから蛍たちは、願っている。
だから蛍たちは、疑わない。
だから蛍たちは、笑顔を絶やさない。
だから蛍たちは、感謝している。
そうすれば、もっかが現れると。



今日も、どこかで蛍たちは舞う。

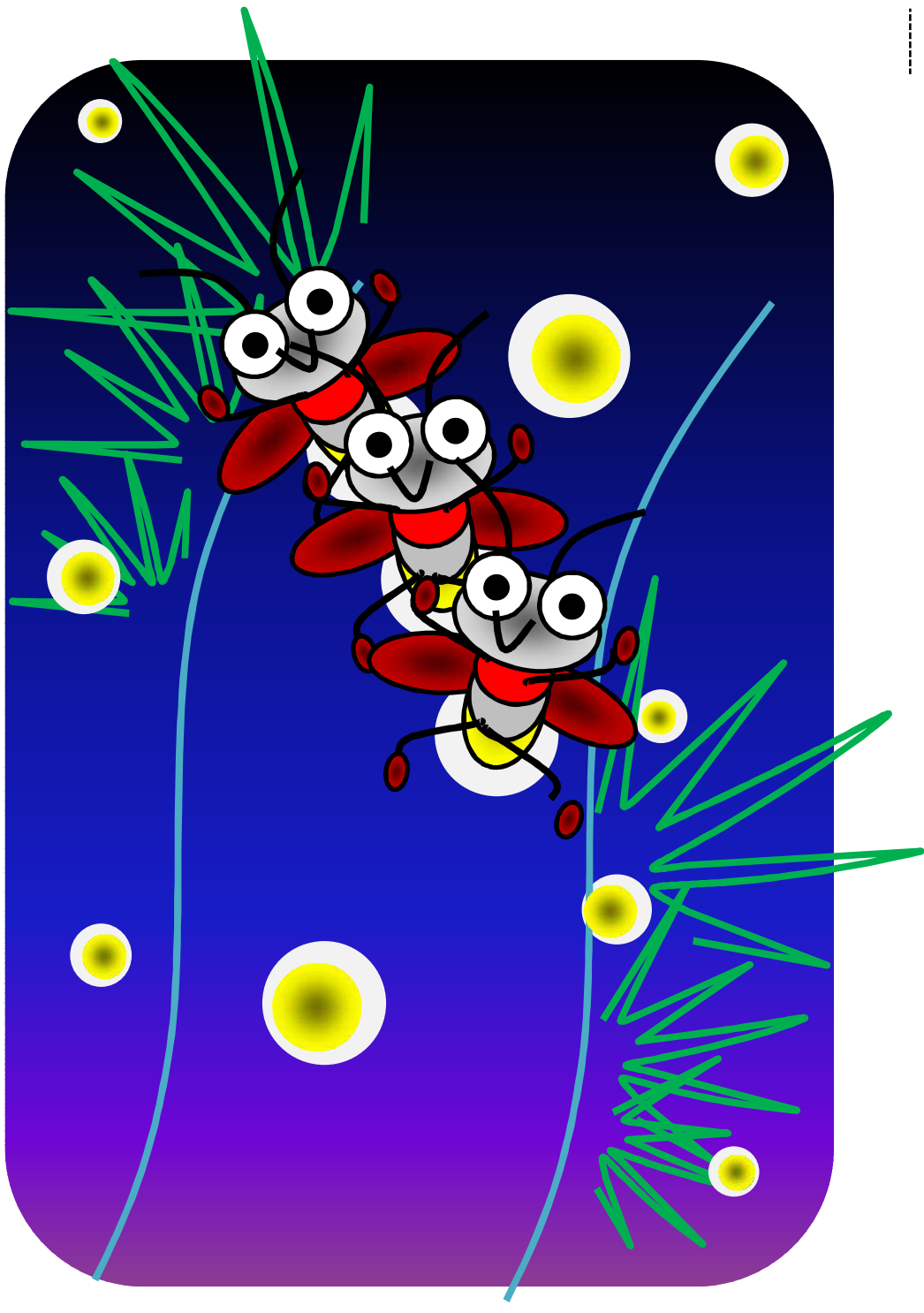
今日も、どこかで蛍たちは笑う。

今日も、どこかで蛍たちは光続ける。

そうすれば、もっこは現れる。

今日も、どこかでもっこが現れる。

そうすれば、みんなが幸せになれる。



感じてください、蛍たちの光を。

感じてください、蛍たちの思いを。

感じてください、もっこの気持ちを。

感じてください、もっこの光を。

そう、感じる事ができれば、きっといつか、

私たちも、もっこに出会える時がくるでしょう。

（おわり）

